

全日本教職員組合

養護教員部 ニュース

2017年10月

NO. 124

発行：情宣部

保健室からの発信 2017 夏の全国学習交流集会 in 東京 開催

7月29日～30日、東京で開催した「保健室からの発信 夏の全国学習交流集会」には、全国から213人の仲間が集まり、学習と交流を深めました。

ダンススケッチカンパニーのみなさんによる「大江戸ダンス」で元気に開幕しました。

記念講演は「子どもたちの未来のためにわたしたちができること～学校・家庭・地域における子どもの人権の視点から～」と題して、弁護士の山下敏雅さんより、お話しいただきました。

ご紹介いただいた事例からは、子どもたちの生の姿、心の声

を知ることができました。そして、理解者と出会うことで子どもは閉ざしていた心を開くことができ、

大きく変わることができることがわかりました。見せていただいた

少年の手紙には胸が熱くなりました。参加者からは「子どもたちの

ために強い気持ちを持って動いてくれる人がいることがわかり、と

ても心強くなりました」「先生の熱意に感動しました。子どもの心の

底にある思いをじっくりと聞くことの大切さを痛感しました。子

どもの心の叫びを察知できる大人になりたい」「あっという間に時

間が過ぎました。事例をあげての講演は子どものしんどい状況がリアルに語られ、それを支援する山下弁護士の姿が素晴らしかったで

す。子どもの行動の背景（性の問題・虐待・家族関係 etc.）を掘

り下げることの大事さを改めて学びました」など、たくさんの感想が寄せられました。養護教諭と弁護士、それぞれ立場は違っても子どもの立場に立って寄り添うことの大切さを学ぶことが出来ました。

開会集会に引き続き、自主講座では「性別で見る多様性と人権～見えない/見せないしんどさを抱える子どもたちに向き合う」と題して、飯田亮瑠さんよりお話しいただきました。参加者からは「知っているつもりでいたLGBTの人たちのことを自分は理解していなかったことが多くあったのだということを感じました」「知らないことで人を傷つけているという自覚もあわせて持つことができました」「LGBTの人が自分らしさを出せる社会への一步に、今度は私がかかわれたらと強く感じました」など、記念講演、自主講座ともにこれまでや現在の自分と重ね合わせ、いろいろな思いを持った人も多く、参加者のニーズに十分に応える講演でした。

その後、会場を移動しての夕食交流会では、フラダンス、唄と三味線、東京クイズ、恒例のブロック紹介など、現地のみなさんの工夫された企画で、楽しいひとときを過ごしました。初参加の方からは「全国にこんなにたくさんの仲間がいるとうれしく思いました」という感想もあり、改めて交流の意義を感じる交流会でした。

2日目は5つの分科会で計8本のレポートが報告されました。それぞれのレポートから学び、討論の柱をもとに活発な論議が繰り広げられました。

開会集会の最後に来年の開催地福島からのよびかけがあり、「来年はぜひ福島で！」という思いを胸に2日間の集会を終えました。

(松原 美穂)

